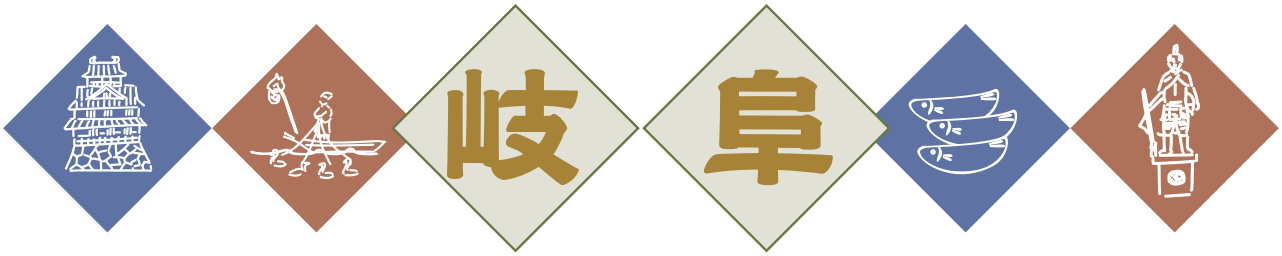
全地連「技術フォーラム 2026

GEO TECH FORUM in GIFU　11/9-10



メインテーマ

「国土のモニタリング」

第37回
全地連「技術フォーラム2026」岐阜

参加者用プログラム

2026年11月9日（月）～10日（火）2日間

特別講演会，技術発表会
　長良川国際会議場（岐阜県岐阜市長良福光2695-2）

技術者交流懇親会
　都ホテル岐阜長良川（岐阜県岐阜市長良福光2695-2）

主　　催：一般社団法人全国地質調査業協会連合会
協　　力：一般社団法人中部地質調査業協会
後　　援：国土交通省中部地方整備局、岐阜市
協　　賛：国立研究開発法人土木研究所

技術発表論文は、一般社団法人全国地質調査業協会連合会のホームページで公開中です!!

ホームページはこちら　⇒　https://www.zenchiren.or.jp/forum/

目　　次

１．受付について（受付案内、会場案内）.....1
２．開会式・特別講演について（会場、特別講演レジュメ）.....3
３．展示会について.....5
４．技術発表会について（セッション区分、発表一覧、論文、要約）....7
５．CPD について.....12
６．技術者交流懇親会について（都ホテル岐阜長良川）.....13
７．その他、会場について（荷物、ランチ、アクセス、会場図）.....14

全地連フォーラム２０２６（岐阜）[長良川国際会議場]　プログラム

第１日目（午前）１１月９日　総合受付開始　９：００～　　入場開始　９：３０～

[開会式・特別講演会]　会場：１階「メインホール」１０：００～１２：００

●開会挨拶　（一社）全国地質調査業協会連合会　会長　田中　誠

●来賓挨拶　国土交通省　中部地方整備局長　　西村　拓　様
岐阜県副知事　　足立葉子　様
岐阜市長　　柴橋 正直　様

●特別講演会　１０：３０～１２：００
「南海トラフ地震と複合災害」
講師　香川大学　特任教授　金田義行　様

第１日目（午後）１１月９日　１３：００～１７：１５

[技術発表会]　会場：国際会議場（５階）・大会議室（４階）・第５会議室（２階）・メインホール

・特別セッション：地質調査業界をけん引する若手技術者が語る「私のボーリングコアへのこだわり」
・海外視察団セッション：海外地質調査制度・技術調査ミッション 2026（Aus・NZ）報告
・技術委員会セッション：「新しい時代の地質調査技術検討 WG」の活動
・企画委員会セッション：地質調査の安全作業
・地質リスクマネジメント事例研究発セッション／・一般セッション

[展示会]　会場：１階　市民ギャラリー

[技術者交流懇親会]　会場：都ホテル　岐阜長良川

●受付開始　１７：３０～
●懇親会　１８：００～１９：５０

第２日目（午前）１１月１０日　９：００～１１：４５

[技術発表会]　会場：国際会議場（５階）・大会議室（４階）・第５会議室（２階）・メインホール

・一般セッション
・現場調査技術セッション

[展示会]　会場：１階　市民ギャラリー

第２日目（午後）１１月１０日　１３：００～１５：００

[技術発表会]　会場：国際会議場（５階）・大会議室（４階）・第５会議室（２階）・メインホール

・一般セッション

[展示会]　会場：１階　市民ギャラリー

[スタッフ打上]　会場：メインホールホワイエ

１．受付について

ご来場の際は、３Ｆ総合受付に『参加者パスポート』をご提示のうえ、参加を登録してください。
期間中、終日１Ｆの「総合受付」にて、来賓、聴講ご招待者の受付を行っております。

（１）受付開始時間

１日目　１１月９日（月）　９時００分より
２日目　１１月１０日（火）　８時３０分より

（２）受付場所

総合受付は、１階ホワイエ（南玄関側の廊下）にございます。
※会場案内図を次頁に示します。

（３）参加者パスポートについて

参加者パスポートは、参加証とネームプレート用のカードになります。**必ずご持参ください。**

・一般参加者用
・発表者用



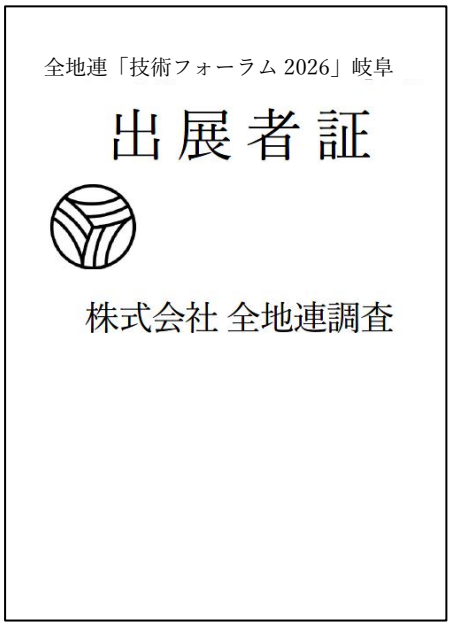
技術者交流懇親会をお申し込みの方はこのマークが表示されます

※　会場内では、ネームプレートを付けて表示してください。
※　聴講ご招待者のネームプレートは、お帰りの際に必ずご返却ください。
２日間共に参加される方は、最終日にご返却ください。

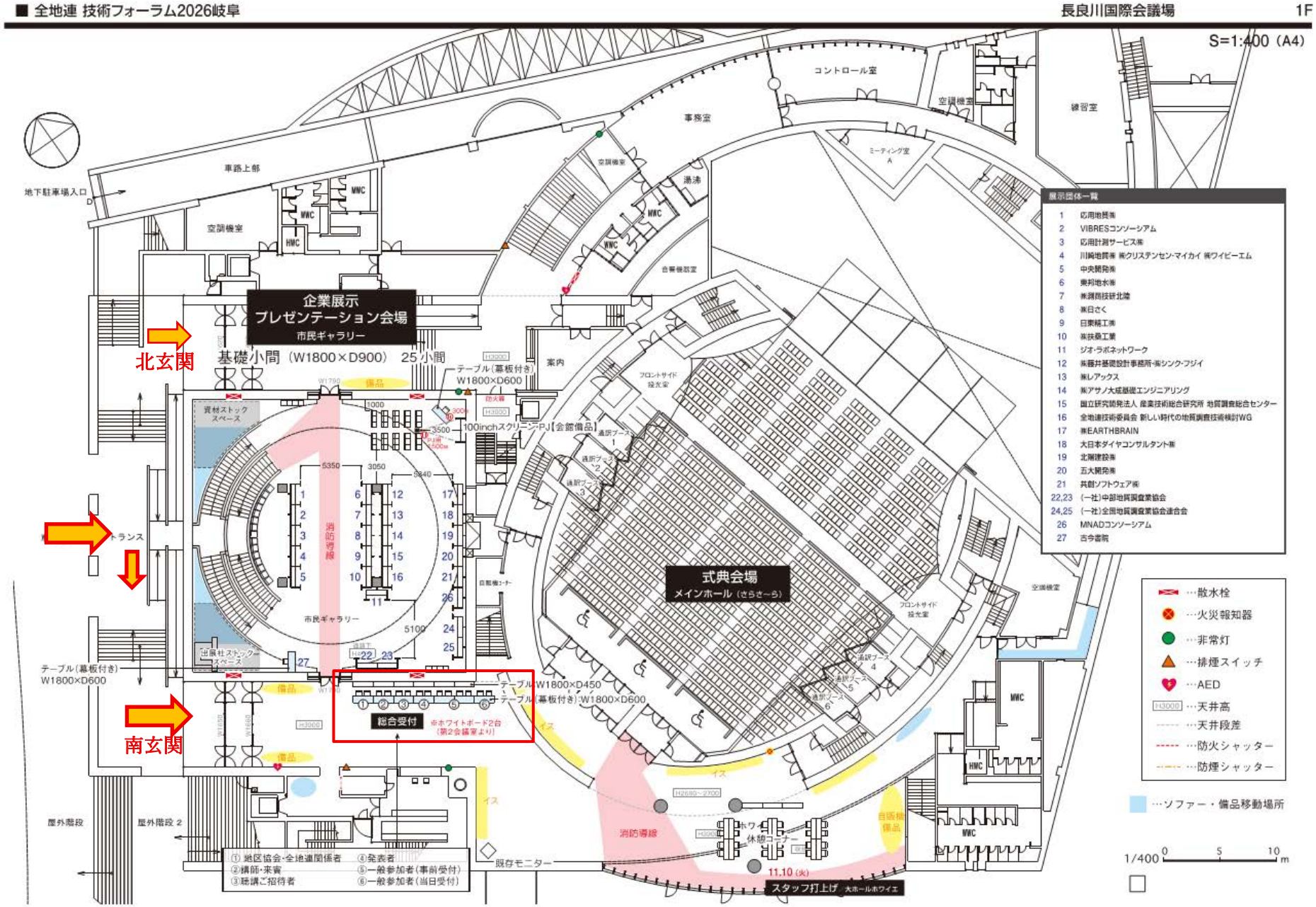
・聴講ご招待者用



・出展者証



【会場案内図】（長良川国際会議場１F）



２．開会式・特別講演について

開会式・特別講演は、１１月９日（月）に執り行います。

（１）会場

１階「メインホール」

「総合受付」にて、来賓、聴講ご招待者の受付を行っております。

（２）開始時間

入場開始９時３０分，式典開始１０時００分

（３）プログラムは、以下の通りとなっております。

●開会挨拶　（一社）全国地質調査業協会連合会　会長　田中　誠

●来賓挨拶　国土交通省　中部地方整備局長　西村　拓　様

岐阜県副知事　足立葉子　様

岐阜市長　柴橋　正直　様

●特別講演会　１０：３０～１２：００

「国土強靱化に関する最近の動向について」

講師：金田　義行　氏　　香川大学　特任教授

【特別講演会　講師プロフィール】



かねだよしゆき

金田義之

香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携機構

地域強靭化研究センター 特任教授，学長特別補佐

専門分野ー地震学、減災科学

昭和 54 年(1979 年) 東京大学理学系研究科大学院

地球物理学専攻 修士課程修了

平成 6 年(1994 年) 東京大学 理学博士 取得

平成 9 年(1997 年) 海洋科学技術センター(現:国立

研究開発法人海洋研究開発機構)

平成 21 年(2009 年) 地震津波・防災研究プロジェクト

プロジェクトリーダー

平成 26 年(2014 年) 名古屋大学 減災連携研究センター 特任教授

平成 28 年(2016 年) 現職

【特別講演会 レジュメ】

「南海トラフ地震と複合災害」

国立大学法人　香川大学　　教授　金田義行
四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 副機構長
地域強靭化研究センター長

【講演要旨】

日本は世界有数の地震国である。これまでも１９９５年阪神淡路大震災、２０１１年東日本大震災などの大震災が発生している。また近年では気候変動により日本でも甚大な風水雪害が頻発しており、今後危惧される地震災害としては、南海トラフ巨大地震や首都直下地震などが挙げられるが、大規模震災前後での風水雪害の発生リスクも高まっている。同時に震災と風水雪害が発生する可能性は必ずしも高いとは言えないが、例えば大震災から復興までの間に風水雪害が発生するリスクは非常に高くなってきている。つまりこれが複合災害である。

実際には震災に加えて新たな洪水や土砂災害が加わることで被害が相乗的に拡大する。２０２４年能登半島地震では震災に加え９ヶ月後に甚大な豪雨災害が発生し、２０１８年大阪北部地震災害とその後の台風２１号による甚大な風水害が発生している。また、２０１８年北海道胆振東部地震は大きな地震動と火山灰に覆われた地質条件に加え、地震前の豪雨による地下水の増加により広域な斜面崩壊が発生したと考えられおり、複合災害は決して頻度の低い災害ではない。遡れば１９２３年の大正関東大震災での大火災も能登半島付近にあった台風による強風が火災被害を拡大させたと考えられている。

さらに、連鎖する震災（例：２０１６年熊本地震）や震災と火山災害（例：１７０７年宝永地震と富士山噴火）など、今後の災害対策の新たな視点として、南海トラフ地震の半割れ対応や北海道・三陸沖後発地震対応などの連載する震災に加えて甚大な風水雪害や火山災害といった複合災害対応が不可欠である。特に南海トラフ地震の際の復旧復興は多くの時間を要するものと想定されており、その間に甚大な風水雪害を伴う複合災害のリスクは高まるばかりである。

以上

３．展示会について

展示会場は、無料でどなたでもご参加いただけます。以下の団体が参加しております。
各展示ブースでは、担当者が名札を付けてご質問等お受けしております。

○参加企業

【地盤環境調査関係】

大日本ダイヤコンサルタント㈱、ジオ・ラボネットワーク、ＭＮＡＤコンソーシアム

【システム関連コーナー】

共創ソフトウェア㈱、五大開発㈱、北陽建設㈱、株式会社 EARTHBRAN

【調査・探査機器関係】

応用計測サービス㈱、VIBRES コンソーシアム、応用地質㈱、川崎地質㈱／
㈱クリステンセン・マイカイ／㈱ワイビーエム、日東精工㈱、
㈱藤井基礎設計事務所／㈱シンク・フジイ、㈱レアックス、中央開発㈱、
㈱測商技研北陸、㈱日さく、㈱アサノ大成基礎エンジニアリング、東邦地水㈱

【試錐機等関連コーナー】

㈱扶桑工業

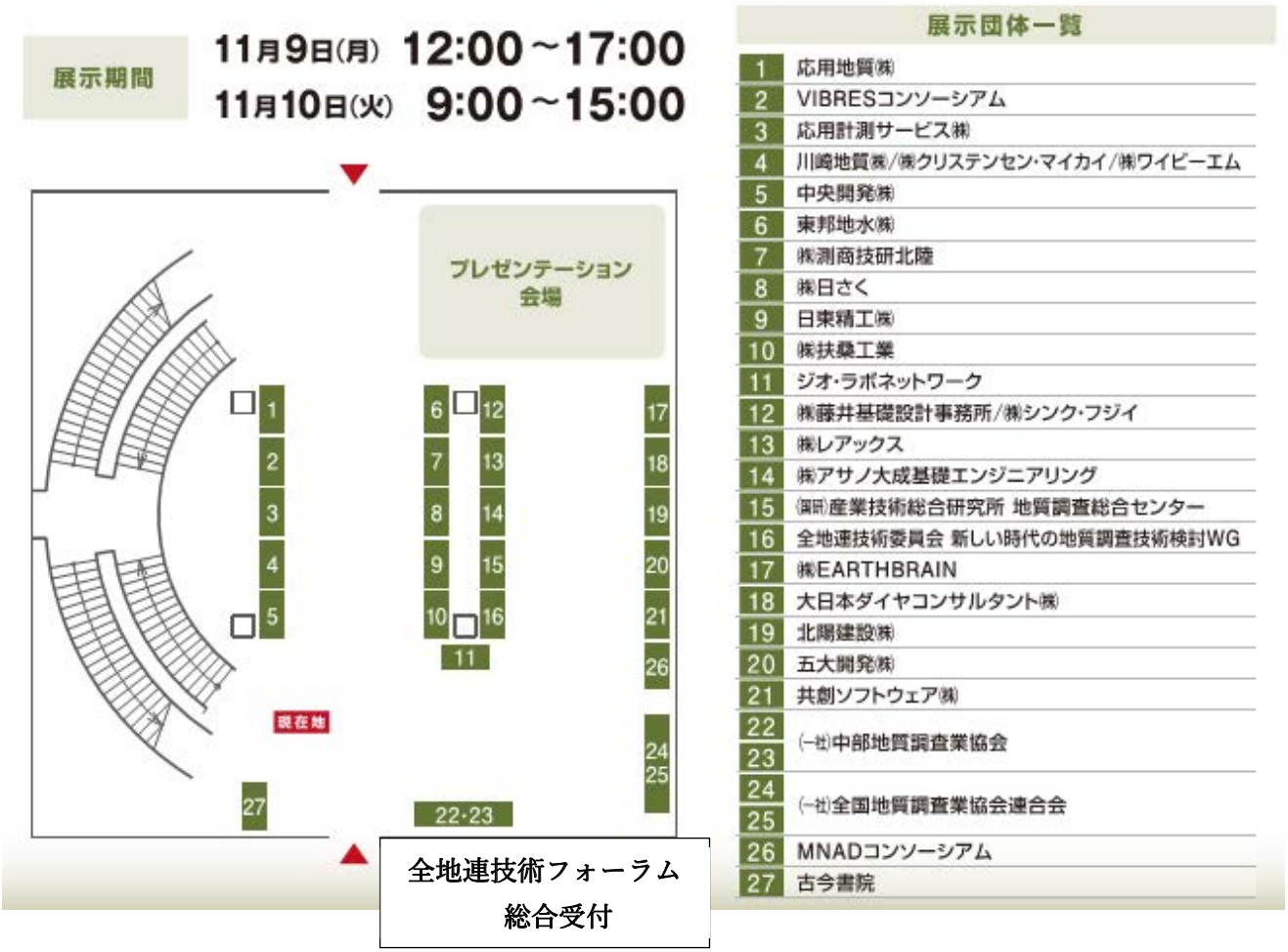
【その他関連技術コーナー】

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター、
全地連技術委員会 新しい時代の地質調査技術検討 WG、
一般社団法人 中部地質調査業協会、
一般社団法人 全国地質調査業協会連合会

【書籍販売コーナー】

株式会社古今書院

○展示会場　１Ｆ　市民ギャラリー



日時	ブース No.	展示団体名	プレゼンタイトル
11月9日12:20-	9	日東精工株式会社	移動式クレーン等の地盤崩壊による転倒リスクを評価する自動載荷試験装置“ジオジャッジ(GeoJudge)”
11月9日12:30-	10	株式会社扶桑工業	安全デッキ(FSD-2)、SWTツールス、超小型・軽量ボーリングマシン（ＫＲ-Ｓ・SH）
11月9日12:40-	4	川崎地質株式会社　株式会社クリステンセン・マイカイ　株式会社ワイビーエム	次世代ボーリングマシン　　熟練依存から自動制御と自動記録へ
11月9日12:50-	6	東邦地水株式会社	地下空洞の規模や拡がり方向を高精度かつ低コストで把握することが可能なシステム
11月10日11:50-	5	中央開発株式会社	ボーリング調査の自動化による地盤調査DXを目指して
11月10日12:00-	8	株式会社日さく	多点温度検層、鉄・マンガン現地分析機
11月10日12:10-	7	株式会社測商技研北陸	崩壊斜面・構造物変位の遠隔監視技術
11月10日12:20-	21	共創ソフトウェア株式会社	ソフトウェア活用による質的な業務改革
11月10日12:30-	1	応用地質株式会社	進化する製品ラインアップのご紹介
11月10日12:40-	11	ジオ・ラボネットワーク	ジオ・ラボネットワークの活動紹介、沈降分析の自動化、土質試験品質確保機構の活動
11月10日12:50-	15	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター	産総研の制度を利用して，御社の成長と，地質業界の立場の向上を目指しましょう

４．技術発表会について

技術発表会は、特別セッション（地質調査業界をけん引する若手技術者が語る「私のボーリングコアへのこだわり」）、地質リスクマネジメント事例研究会セッション、一般セッション、現場調査技術セッションに分かれています。次ページのセッション区分でご確認ください。

（１）開始時刻等

１日目　１１月　９日（月）　開始時刻１３時００分、終了時刻１７時１５分

２日目　１１月１０日（火）　開始時刻　９時００分、終了時刻１５時００分

（２）会場

国際会議場（５階）・大会議室（４階）・第５会議室（２階）・メインホール（1 階）

（３）技術発表会に関する概要

①特別セッションについて

今回のフォーラムでは、特別セッションとして以下の内容を準備しております。

・特別セッション[地質調査業界をけん引する若手技術者が語る「私のボーリングコアへのこだわり」]

座長　基礎地盤コンサルタンツ株式会社　武政　学氏

②セッション全般の進行について

［一般セッション］［現場調査技術セッション］では、発表時間 15 分（発表 10 分，質疑 5 分）

［地質リスクマネジメント事例研究セッション］では、発表時間 10 分

③発表者への質問について

ご質問の際は、挙手をしてください。司会者から指名されたのちに、ご自身の所属とお名前を述べ、次に具体的な質問に続けてください。

１回の質問は、１項目としてください。また、応答に対して質問を重ねないよう、お願いいたします。

④“優秀技術発表者賞”について

各セッション１名の発表者を、優秀技術発表者として表彰します。結果は全地連ホームページで発表し、対象者には記念品を贈呈します。

選考方法は、司会者が発表内容・発表技術などを総合的に判断して推薦し、全地連の委員会が最終決定いたします。

⑤技術発表論文の HP 掲載について

技術発表論文及び要約は、全地連のホームページで公開しております。

全地連ホームページの URL ⇒ https://www.zenchiren.or.jp/forum/

⑥セッション区分及び技術発表内容一覧

セッション区分、技術発表内容一覧について、次頁以降に示しますので、聴講のご参考にしてください。

【セッション区分・会場】

全地連「技術フォーラム 2026」岐阜　技術発表会・展示会スケジュール

会場 / 時間	国際会議場【A会場】［定員130名］〔5階〕	大会議室1【B会場】［定員102名］〔4階〕	大会議室2【C会場】［定員102名］〔4階〕	大会議室3【D会場】［定員102名］〔4階〕	メインホール【E会場】［定員200名］〔1階〕	第5会議室【F会場】［定員70名］〔2階〕	市民ギャラリー【展示会場】〔1階〕
11月9日							
13:00 (90分) 14:30	A1：デジタルコア CM001 CM002 CM003 CM004 CM005 CM006 6	B1：岩盤調査 CM031 CM032 CM033 CM034 CM035 CM036 6	C1：地盤調査・解析 CM062 CM063 CM064 CM065 CM066 5	D1：ボーリング調査1 CM094 CM095 CM096 CM097 CM098 5	E1：地質リスク事例研究セッション GR001 GR002 GR003 委員会報告 3	ー	展示会場
14:45 (150分) 17:15	A2：AI CM009 CM007 CM008 CM012 CM011 CM010 CM013 CM014 CM015 CM016 10	B2：地すべり CM037 CM038 CM039 CM041 CM043 CM044 CM045 7	C2：軟弱地盤調査 CM067 CM069 CM070 CM071 CM072 CM073 CM074 CM075 CM076 9	D2：空洞・埋設物調査1 CM099 CM100 CM101 CM102 CM103 CM104 CM106 CM107 CM108 9	E2：企画委員会セッション CM130 CM131 CM132 CM133 CM134 CM135 CM136 まとめ 7	F2：ボーリング調査2 CM137 CM138 CM139 CM140 CM141 5	
11月10日							
9:00 (60分) 10:00	A3：洋上風力・海上調査 CM017 CM018 CM019 3	B3：点検ほか CM046 CM047 CM048 CM049 4	C3：地下水調査1 CM077 CM078 CM080 3	D3：空洞・埋設物調査2 CM109 CM110 CM111 CM112 4	E3：海外視察セッション AUS・NZ海外視察団による成果報告	F3：室内試験1（精度向上） CM142 CM143 CM144 CM145 4	展示会場
10:15 (90分) 11:45	A4：自動化 CM020 CM021 CM022 CM023 CM025 CM024 6	B4：アンカー CM050 CM051 CM052 CM053 CM054 5	C4：地下水調査2 CM081 CM083 CM084 CM085 CM086 5	D4：空洞・埋設物調査3 CM113 CM114 CM115 CM116 CM117 CM118 6	E4：技術委員会セッション CM126 CM127 CM128 CM129 4	F4：室内試験2（試験方法） CM146 CM147 CM148 CM149 CM150 CM151 6	
13:00 (120分) 15:00	A5：業務の効率化 CM026 CM027 CM029 CM030 4	B5：のり面・斜面 CM055 CM056 CM057 CM058 CM059 CM060 CM061 7	C5：盛土 CM087 CM088 CM089 CM090 CM091 CM092 CM093 CM159 8	D5：物理探査 CM119 CM120 CM121 CM122 CM123 CM124 CM125 7	E5：特別セッション 地質調査業界をけん引する若手技術者が語る［私のボーリングコアへのこだわり］	F5：室内試験3（評価・検討） CM152 CM153 CM154 CM155 CM156 CM157 CM158 CM028 8	

全地連「技術フォーラム2026」（岐阜）技術発表会　内容一覧

セッション区分	論文番号	論文タイトル	名前	地区	会社名
A1：デジタルコア 11月9日　13:00-14:30 国際会議場	CM001	孔壁画像解析における光学式・超音波式スキャナの適用性	千葉 文乃	関東	サンコーコンサルタント株式会社
	CM002	コア全周画像の展開処理および円柱状3Dモデル化システムの開発	吉見 廉	中部	東邦地水株式会社
	CM003	X線CTを含む複数手法の統合による地すべり形状の再評価事例	上野 紘太朗	中部	川崎地質株式会社
	CM004	ハンドヘルドレーザによる資機材搬入計画とコア対比の一事例	山下 祐志	九州	株式会社アーステクノ
	CM005	X線画像を用いたボーリングコアの定量的評価手法の検討	森　遥	関西	復建調査設計株式会社大阪支社
	CM006	ボーリングコアのDX化による新たな維持管理方法の紹介	金島 亮次	中部	基礎地盤コンサルタンツ株式会社
A2：AI 11月9日　14:45-17:15 国際会議場	CM009	関西地質調査業協会「AIと地質プロジェクト」の取組み紹介	村上 みなみ	関西	応用地質株式会社
	CM007	AIと音響センシング技術を活用した供試体の地盤特性の検討	岩田 克彦	関西	ハイテック株式会社
	CM008	SWS試験時のロッド振動波形データによるAI土質分類の判定	澤田 雅言	関西	株式会社KANSOテクノス
	CM012	AIによるコア写真からの定性的な岩級区分判定の基礎検討	神庭 崇彰	関西	株式会社日さく
	CM011	深層学習によるボーリングコア画像からのRQD算出	谷垣 嘉基	関西	株式会社タニガキ建工
	CM010	機械学習による地形種の自動分類とその精度検証	長岡 達哉	関西	株式会社田中地質コンサルタント
	CM013	AIを用いた路面性状調査とFWD調査との関連性について	村嶋 光明	九州	株式会社セイコー
	CM014	画像分析AIを用いた粗粒土及び細粒土の粒度分析の方法	細堀 建司	関東	基礎地盤コンサルタンツ株式会社
	CM015	AI活用で正解ラベルが及ぼす影響の考察　岩盤判定を例として	岡谷 実治子	中国	ＵＩＣコンサルタント株式会社
	CM016	衛星画像とAIを活用した既存盛土等抽出と精度評価	櫻井 伸治	関西	株式会社ウエスコ
A3：洋上風力・海上調査 11月10日　9:00-10:00 国際会議場	CM017	三船式三次元音波探査法の開発	乾 太生	関東	応用地質株式会社
	CM018	沿岸音響トモグラフィ装置の開発	赤松 洋介	関東	応用地質株式会社
	CM019	DTH-SPTの試験的実施および課題とその検証について	若林 将輝	関東	川崎地質株式会社
A4：自動化 11月10日　10:15-11:45 国際会議場	CM020	実大斜面盛土崩壊実験での崩壊挙動とIoT表層傾斜計による評価	今野 信一	関東	応用地質株式会社
	CM021	ボーリング掘進情報のデジタルデータ記録とコア状態の比較事例	福士 奈津希	北海道	大地コンサルタント株式会社
	CM022	熱中症対策としての自動ボーリングシステムの開発	MYONAING TUN	関東	応用計測サービス株式会社
	CM023	自動SPTと削孔データ管理装置を備えたボーリングマシンの導入	岡田 直人	関東	中央開発株式会社
	CM025	全自動ボーリングマシンの開発－超軟弱粘性土地盤での削孔試験－	山田 信仁	九州	株式会社ワイビーエム
	CM024	全自動ボーリングマシンの開発－超軟弱粘性土のサンプリング－	三枝 佳美	関東	株式会社クリステンセン・マイカイ
A5：業務の効率化 11月10日　13:00-15:00 国際会議場	CM026	現場点検業務DX化によるデータ管理システムの構築と運用	新宮 直人	中国	株式会社藤井基礎設計事務所
	CM027	3Dハンディスキャナーを使用した地表踏査	真野 雄	中国	株式会社藤井基礎設計事務所
	CM029	GISを活用した土取場調査業務	工藤 真弓	中国	株式会社 山口建設コンサルタント
	CM030	能登地域における微地形判読業務の成果と課題	和田 臨渡	関東	中央開発株式会社
B1：岩盤調査 11月9日　13:00-14:30 大会議室１	CM031	ボーリングコアからの火成岩の分類方法について	黒田 良明	関西	興亜開発株式会社
	CM032	切土計画位置における地質調査事例～帯磁率計を用いた岩相区分～	宮内 仁	中部	大日本ダイヤコンサルタント株式会社
	CM033	熊野酸性岩類分布地域における地質調査事例	折原 浩平	中部	中央開発株式会社
	CM034	シールドリバースボーリング調査事例	松尾 翔一朗	関東	国際航業株式会社
	CM035	福島県に分布する火砕岩の成因と工学的性質について	廣居 雅史	東北	新協地水株式会社
	CM036	DL級の花崗岩が急峻な地形を呈する現場の地質調査事例	青山 大輝	中部	青葉工業株式会社
B2：地すべり 11月9日　14:45-17:15 大会議室１	CM037	地すべり対策の横ボーリングにおける孔内洗浄の実施事例	小林 和生	中国	株式会社荒谷建設コンサルタント
	CM038	地すべり地での水抜きボーリング工の長期効果と融雪期活動の考察	平船 未月	関西	大日本ダイヤコンサルタント株式会社
	CM039	地すべり観測業務の引き継ぎにおける機器変更への対応	寺島 碧郁	中部	株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング
	CM041	空中電磁探査と地質調査を踏まえた地すべり判定事例	吉田 亘希	北陸	大日本ダイヤコンサルタント株式会社
	CM043	造成地の切土法面で発生した地すべりの調査・対策事例	清水 秀倫	北陸	川崎地質株式会社　北陸支店
	CM044	対策済み地すべり箇所における地すべり検討事例	清水 史也	中国	株式会社東建ジオテック 山口支店
	CM045	ARマーカーを用いたトンネル内の地すべり変位観測	池原 尚朋	中部	サンコーコンサルタント株式会社
B3：点検ほか 11月10日　9:00-10:00 大会議室１	CM046	地域建設企業によるドボク模型を用いた小学生対象の防災授業	岩佐 直人	中国	株式会社藤井基礎設計事務所
	CM047	道路防災点検の点検方法の課題と解決策の提案	小寺 凌	九州	大日本ダイヤコンサルタント株式会社
	CM048	道路防災点検での「計測困難な事象」への３次元点群データの適用	大津 滉介	北海道	株式会社ドーコン
	CM049	水中ドローンと全天球カメラを利用した水中構造物の変状調査事例	中江 悠	関西	基礎地盤コンサルタンツ株式会社
B4：アンカー 11月10日　10:15-11:45 大会議室１	CM050	グラウンドアンカー残存緊張力の振動式測定手法に関する活動報告	神田 広信	関東	応用地質株式会社
	CM051	グラウンドアンカーに接触がみられるリフトオフ試験の再現実験	辻本 雅治	関東	川崎地質株式会社
	CM052	長大法面におけるアンカーの健全度調査事例	田中 陵斗	関東	中央開発株式会社
	CM053	徳島県における地質指標を考慮したアンカー周面摩擦抵抗値の検討	辻 敦矢	四国	ニタコンサルタント株式会社
	CM054	三波川変成岩類を定着層としたグラウンドアンカー変状要因の考察	大澤 研斗	中部	株式会社フジヤマ
B5：のり面・斜面 11月10日　13:00-15:00 大会議室１	CM055	FCBコンポジット擁壁の変状発生メカニズムの推定	高橋 岬	関東	基礎地盤コンサルタンツ株式会社
	CM056	湧水と地質構造の関係性が示された地表踏査の事例	井野川 知彦	関西	株式会社KGS
	CM057	峡谷沿い遊歩道における簡易試験を活用した岩盤斜面調査事例	宿澤 未波	関東	応用地質株式会社
	CM058	奥能登豪雨時に崩壊した斜面における事後解析	池田 智博	関西	大日本ダイヤコンサルタント株式会社
	CM059	長大法面に発生した法面変状の斜面計測・空洞調査事例	田和 照大	関西	株式会社タニガキ建工
	CM060	表層崩壊が見られる斜面の安定検討の事例	大島 弘己	中国	興亜開発株式会社
	CM061	花崗岩類を基盤とする法面における安定度評価の事例	川口 慶一郎	四国	川崎地質株式会社
C1：地盤調査・解析 11月9日　13:00-14:30 大会議室２	CM062	新規ダム河床部におけるグラウチング試験業務の事例紹介	青木 純也	中国	応用地質株式会社
	CM063	SIPニューマークD 法によるため池の耐震照査の事例紹介	荻田 誠実	中部	日本工営都市空間株式会社
	CM064	熱応答試験時における近接採熱孔の温度変化	堀井 新	関東	株式会社日さく
	CM065	リバースサーキュレーション工法を用いた高性能井戸施工	早川 由帆	関西	中央開発株式会社
	CM066	福島県の凝灰岩に設置した地中熱交換器中で測定した温度変化事例	幸田 英顕	東北	新協地水株式会社

全地連「技術フォーラム2026」（岐阜）技術発表会　内容一覧

セッション区分	論文番号	論文タイトル	名前	地区	会社名
C2：軟弱地盤調査 11月9日　14:45-17:15 大会議室２	CM067	凍結試料運搬時に用いるドライアイスからのCO2回収方法の検討	北郷 翔文	関東	応用地質株式会社
	CM069	泥炭性軟弱地盤上の盛土沈下に関する要因分析および修正解析	菊池 優希	北海道	株式会社構研エンジニアリング
	CM070	台地・低地の堆積環境の違いがS波速度に及ぼす影響	浅野 滋之	関東	千葉エンジニアリング株式会社
	CM071	第四紀未固結堆積物層のS波速度実測値とN値による推定値の比較	西條 成	北海道	大日本ダイヤコンサルタント株式会社
	CM072	せん断波速度を用いた洪積砂質土を対象とした液状化判定	徳山 英之	関東	株式会社東京ソイルリサーチ
	CM073	不均一な埋立地盤における液状化対策工の改良効果確認事例	松谷 凌太	関東	川崎地質株式会社
	CM074	既存の液状化ハザードマップ作成手法の比較と活用上の留意点	岸浦 正樹	関東	応用地質株式会社
	CM075	河川堤防のALID解析における液状化時の過大変形抑制について	横井 亜紀	中国	基礎地盤コンサルタンツ株式会社
	CM076	能登半島地震に伴う液状化地盤の検討	津田 普輝	中部	株式会社エイト日本技術開発
C3：地下水調査１ 11月10日　9:00-10:00 大会議室2	CM077	横ボーリング工施工後の地下水位低下の実態と効果的な配置計画	西村 悟之	中国	株式会社荒谷建設コンサルタント
	CM078	地下水流動考察のための2種類の物理探査手法の活用例	村上 七海	関東	株式会社日さく
	CM080	農業用ため池の漏水調査事例	山縣 健次	中部	青葉工業株式会社
C4：地下水調査２ 11月10日　10:15-11:45 大会議室2	CM081	PFAS 調査の効率化に向けた機材洗浄方法に関する代替検討	増渕 由香	関東	応用地質株式会社
	CM083	施工影響による水源井戸の濁り発生への対応検討事例	奈良 杏子	関西	明治コンサルタント株式会社
	CM084	汽水域における周辺工事前後の地下水モニタリング事例	前川 亨	中部	東邦地水株式会社
	CM085	護岸改修工事に伴う周辺地下水位への影響検討	塩飽 悠馬	四国	株式会社エイト日本技術開発
	CM086	工事に伴う水文変化への速やかな対応に向けた事前検討	越野 真天	九州	大日本ダイヤコンサルタント株式会社
C5：盛土 11月10日　13:00-15:00 大会議室２	CM087	継続的な盛土現場での磁気式沈下計による沈下量の観測事例	鈴木 太樹	関東	千葉エンジニアリング株式会社
	CM088	市街化地域における大規模盛土造成地の優先度評価事例	井上 真生子	関東	国際航業株式会社
	CM089	造成地における旧地形を考慮した地層分布の推定	佐藤 玲奈	関東	株式会社日さく
	CM090	既存盛土等の優先度評価に関する一考察及び留意点	喜多 風馬	関東	株式会社エイト日本技術開発
	CM091	3次元モデルと盛土規制法を踏まえた擁壁変状対策	垣内 友美	九州	株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング
	CM092	試験盛土結果に基づく山形中山道路における軟弱地盤対策の最適化	森野 大樹	東北	大日本ダイヤコンサルタント株式会社
	CM093	既設沢埋め盛土の 安定性再評価の事例	菅原 あすか	北海道	基礎地盤コンサルタンツ株式会社
	CM159	令和6年能登半島地震を踏まえた道路盛土法面の対策工検討事例	石川 大斗	中部	サンコーコンサルタント株式会社
D1：ボーリング調査１ 11月9日　13:00-14:30 大会議室3	CM094	小型・軽量化を目指した簡易地盤調査機の開発について	福地 唯	関東	東京電力パワーグリッド株式会社
	CM095	小径ライナーによる固定ピストン式サンプリング事例	岡田 樹	中部	株式会社アオイテック
	CM096	清水寺の境内斜面での軽量型ボーリング調査事例	PHUNG BANGTRUONG	関西	ハイテック株式会社
	CM097	ボーリング孔からの地下水噴出トラブルとその対策	藤川 泰成	関東	株式会社東京ソイルリサーチ
	CM098	単孔式地下水流向流速測定における間詰材の重要性と開孔率	都築 孝之	中部	日本物理探鑛株式会社
D2：空洞・地中埋設物調査1 11月9日　14:45-17:15 大会議室3	CM099	物理探査によるボタ埋め土の調査・検証事例	松地 遼太郎	九州	日本地研株式会社
	CM100	詳細状況が不明な廃止横坑を対象とした総合的調査の実施事例	安川 文乃	関東	株式会社地圏総合コンサルタント
	CM101	水平傾斜ボーリングと孔内撮影による廃坑道閉塞壁内の構造調査	伊藤 悠太	中部	株式会社日さく
	CM102	史跡富士山人穴富士講遺跡における崩壊対策のための調査点検	中村 天哉	中部	応用地質株式会社
	CM103	風車基礎岩盤中に存在する空洞の検出と地形・地質学的考察	野坂 大	北陸	ナチュラルコンサルタント株式会社
	CM104	道路陥没の発生要因の推定と影響範囲の調査事例	飯塚 悠貴	関東	大日本ダイヤコンサルタント株式会社
	CM106	多様なデジタル機器を用いた造成地の埋設管探査事例	虎尾 魁人	四国	ニタコンサルタント株式会社
	CM107	高密度表面波探査とボーリングを併用した下水道管路の調査事例	中村 翔	東北	株式会社 新東京ジオ・システム
	CM108	施設跡地における残置埋設物の調査事例	岡田 美夢	中部	日本物理探鑛株式会社
D3：空洞・地中埋設物調査2 11月10日　9:00-10:00 大会議室3	CM109	表面波探査と3Dレーザースキャナー測定による地中埋設物調査	渡邊 将史	中部	大和探査技術株式会社
	CM110	コンパクト設計による空洞可視化システムの開発と現場適用	酒本 直弥	関東	川崎地質株式会社
	CM111	表面波探査における空洞調査の事例	松本 桃風	関東	大和探査技術株式会社
	CM112	二次元微動アレイ探査の空洞調査への適用事例	反頭 亮祐	中部	川崎地質株式会社
D4：空洞・地中埋設物調査3 11月10日　10:15-11:45 大会議室3	CM113	磁気探査とボアホールレーダーによる暗渠の確認事例	武田 巨人	九州	興亜開発株式会社
	CM114	埋設管調査における最新地中レーダの有効性	加瀬川 由輝	中部	株式会社テイコク
	CM115	地中埋設物調査における差分図・地中レーダー・試掘の併用事例	林 択望	中部	日本工営都市空間株式会社
	CM116	推進工法の既設杭回避を目的としたボアホールレーダ探査適用事例	明石 凌河	九州	日本地研株式会社
	CM117	車両を用いた地中レーダ探査におけるデータ品質の確保	吉田 寛規	関東	応用地質株式会社
	CM118	手押し式３D地中レーダを用いた地下埋設物調査事例の紹介	坂上 啓	関西	大和探査技術株式会社
D5：物理探査 11月10日　13:00-15:00 大会議室3	CM119	埋設管から得られるボアホールレーダの反射波形について	後藤 健斗	中部	日本物理探鑛株式会社
	CM120	橋梁沈下に伴う杭長調査事例	長谷川 亮典	中部	株式会社東建ジオテック
	CM121	高精度表面波探査の精度・解像度の検証	林 久夫	関東	ジオックスコンサルタント株式会社
	CM122	基盤岩不陸の確認における物理探査手法の比較	竹内 美優	中国	ＵＩＣコンサルタント株式会社
	CM123	比抵抗二次元探査と地下流水音探査の併用による水源選定事例	菊地 涼	中国	株式会社ウエスコ
	CM124	密度検層による推定密度の解析手法の検討	高木 靖司	四国	青葉工業株式会社
	CM125	自然放射能探査を用いた温泉源調査事例	狩野 光輔	関東	東邦地水株式会社
E1：地質リスク事例研究セッション 11月9日　13:00-14:30 メインホール	GR001	計画段階の道路事業における地質リスク検討事例	柏原 真太郎	東北	基礎地盤コンサルタンツ株式会社
	GR002	沖積平野に潜む溺れ谷に起因する道路構造物の地質リスク回避策	荻田 真憲	北陸	株式会社ホクコク地水
	GR003	トンネル坑口における地すべりの地質リスク評価と対策事例	宍戸 拓磨	東北	川崎地質株式会社

全地連「技術フォーラム2026」（岐阜）技術発表会　内容一覧

セッション区分	論文番号	論文タイトル	名前	地区	会社名
E2：企画委員会セッション 11月9日　14:45-17:15 メインホール	CM130	安全パトロールの指摘事項と法律の関係	沼倉 桂一	関東	川崎地質株式会社
	CM131	地質調査ボーリング現場における害虫・害獣安全対策への取り組み	神田 大介	中部	基礎地盤コンサルタンツ株式会社
	CM132	海上作業トラブルにおける事後対応と保険金回収事例	瀧岡 修二	中国	基礎地盤コンサルタンツ株式会社
	CM133	大型SEPを用いた海上調査の安全対策事例について	安東 孝幸	関東	中央開発株式会社
	CM134	山岳地等の地表踏査時における安全対策の取り組み	井上 慧士	関東	中央開発株式会社
	CM135	ヴァーチャルリアリティー（VR)技術を活用した安全教育の取り組み	吉田 圭吾	関東	基礎地盤コンサルタンツ株式会社
	CM136	安全活動の取組み紹介	村瀬 昭彦	関東	株式会社地圏総合コンサルタント
E3：海外視察団セッション 11月10日　9:00-10:00 メインホール		AUS・NZ海外視察団による成果報告 ・団長　　小笠原　正継 ・リーダ　　今井　利宗 ・G1リーダ　加藤　智久 ・G2リーダ　杉山　雄亮			
E4：技術委員会セッション 11月10日　10:15-11:45 メインホール	CM126	新しい時代の地質調査技術検討WG	王寺 秀介	関東	中央開発株式会社
	CM127	災害対応技術のカタログの作成	濱田 俊介	関東	応用地質株式会社
	CM128	地質調査業の災害対応力強化に向けた協力体制の検討	太田 史朗	関東	川崎地質株式会社
	CM129	次世代技術における協調領域の検討	金田 朋之	関東	日本物理探鑛株式会社
E5：特別セッション 11月10日　13:00-15:00 メインホール	地質調査業界をけん引する若手技術者が語る[私のボーリングコアへのこだわり] ・座長　武政 学　　基礎地盤コンサルタンツ株式会社				
	特別１	「ただ掘る」から「品質向上を目指す」まで	佐藤 颯樹	東北	山北調査設計株式会社
	特別２	自身の経験に基づいたコア採取への考え方	三島 浩平	中国	協和地建コンサルタント株式会社
	特別３	～基本を徹底することが最高の技術～	西尾 拓哉	中部	株式会社東洋地質調査
	特別４	高品質コア採取を目的としたビットおよびコアバーレルの開発	飯島　徹	関東	株式会社クリステンセン・マイカイ
	特別５	ベントナイト泥水の役割とその管理手法について	諏訪 浩史	関東	クニミネ工業株式会社
	特別６	高品質ボーリングコアのX線CTによる高精度診断	岩田 克彦	関西	ハイテック株式会社
F2：ボーリング調査２ 11月9日　14:45-17:15 第5会議室	CM137	地質調査における透水試験方法の比較事例	島村 和宏	中部	大日本ダイヤコンサルタント株式会社
	CM138	ボアホールカメラに実装された新しい制御機能の検証	冨浦 裕司	関東	株式会社レアックス
	CM139	地下水位低下工法におけるマンホール内の酸素欠乏について	横田 陽大	東北	株式会社復建技術コンサルタント
	CM140	地すべり観測孔設置におけるグラウト材の配合についての考察	谷村 洋樹	中国	株式会社宇部建設コンサルタント
	CM141	ため池底に超軟弱地盤対策工法を適用した改良効果確認試験	遠島 修蔵	中部	基礎地盤コンサルタンツ株式会社
F3：室内試験１（精度向上） 11月10日　9:00-10:00 第5会議室	CM142	2025年度　地盤材料試験の技能試験報告（その1）	島田 徹也	関西	基礎地盤コンサルタンツ株式会社
	CM143	2025年度　地盤材料試験の技能試験報告（その2）	服部 健太	関西	協同組合関西地盤環境研究センター
	CM144	2025年度　地盤材料試験の技能試験報告（その3）	中山 義久	関西	協同組合関西地盤環境研究センター
	CM145	回帰分析による土質定数推定精度向上の検討	馬場 ちあき	九州	川崎地質株式会社
F4：室内試験２（試験方法） 11月10日　10:15-11:45 第5会議室	CM146	細砂と細粒分を多く含む土質試料の現場判断精度に関する考察	加納 秀斗	中部	興亜開発株式会社
	CM147	シールド工法のビット摩耗に影響する石英含有率の分析・評価	上村 健一	中部	株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング
	CM148	プレート型圧電素子を用いた弾性波速度計測の基礎実験	久保 裕一	中部	中部土質試験協同組合
	CM149	密な砂におけるCUb試験の有効応力評価の限界と対応策	岩田 暁	中部	中部土質試験協同組合
	CM150	繰返しせん断特性を求めるための単純せん断試験装置の開発	安 浩輝	関東	株式会社東京ソイルリサーチ
	CM151	K0 三軸試験装置における制御方法の比較とS波速度の測定例	Tun Tun Win	関東	株式会社東京ソイルリサーチ
F5：室内試験３（評価・検討） 11月10日　13:00-15:00 第5会議室	CM152	降雨浸透速度が土の強度特性に与える影響について	谷 瑠美	関東	基礎地盤コンサルタンツ株式会社
	CM153	定ひずみ速度載荷圧密試験結果に及ぼすひずみ速度の影響	松本 勝己	中部	中部土質試験協同組合
	CM154	北海道に分布する代表的な火山灰質粗粒土の物理的性質について	五十嵐 美帆	北海道	北海道土質コンサルタント株式会社
	CM155	粘性土におけるN値と一軸圧縮強さ及び各物性値の関係	金倉 直人	関東	関東土質試験協同組合
	CM156	低強度改質土のせん断強度に影響を与える要素について	吉田 光	関東	興亜開発株式会社
	CM157	炉乾燥履歴による土の流動特性の変化	石原 聖子	中部	中部土質試験協同組合
	CM158	室内配合試験での試料土の違いによる攪拌時間と圧縮強度について	横野 祥平	北海道	北海道土質試験協同組合
	CM028	富士山東麓スコリアのせん断強度特性	藤原 聡	中部	東邦地水株式会社

５．CPD について

全地連主催の技術フォーラム（全体会、技術発表会、展示会）への参加は、CPD の対象となることを、ジオ･スクーリングネットを運営・管理 する“土質・地質技術者生涯学習協議会”が確認しております。

以下より CPD 証明書をダウンロードし、ご活用ください。
https://www.zenchiren.or.jp/forum/pdf/2026/CPD_gifu.pdf

全体会、技術発表会、展示会の聴講参加は、1 時間あたり 1 CPD ポイント、技術発表会での発表は 1 発表あたり 5CPD ポイントとなります。休憩時間は CPD 算定のための時間に含めますが、昼休みの休憩時間は除外します。

全地連のボランティアスタッフは、「学会活動」として勘案され、1 時間当たり 1 CPD ポイントとなります。

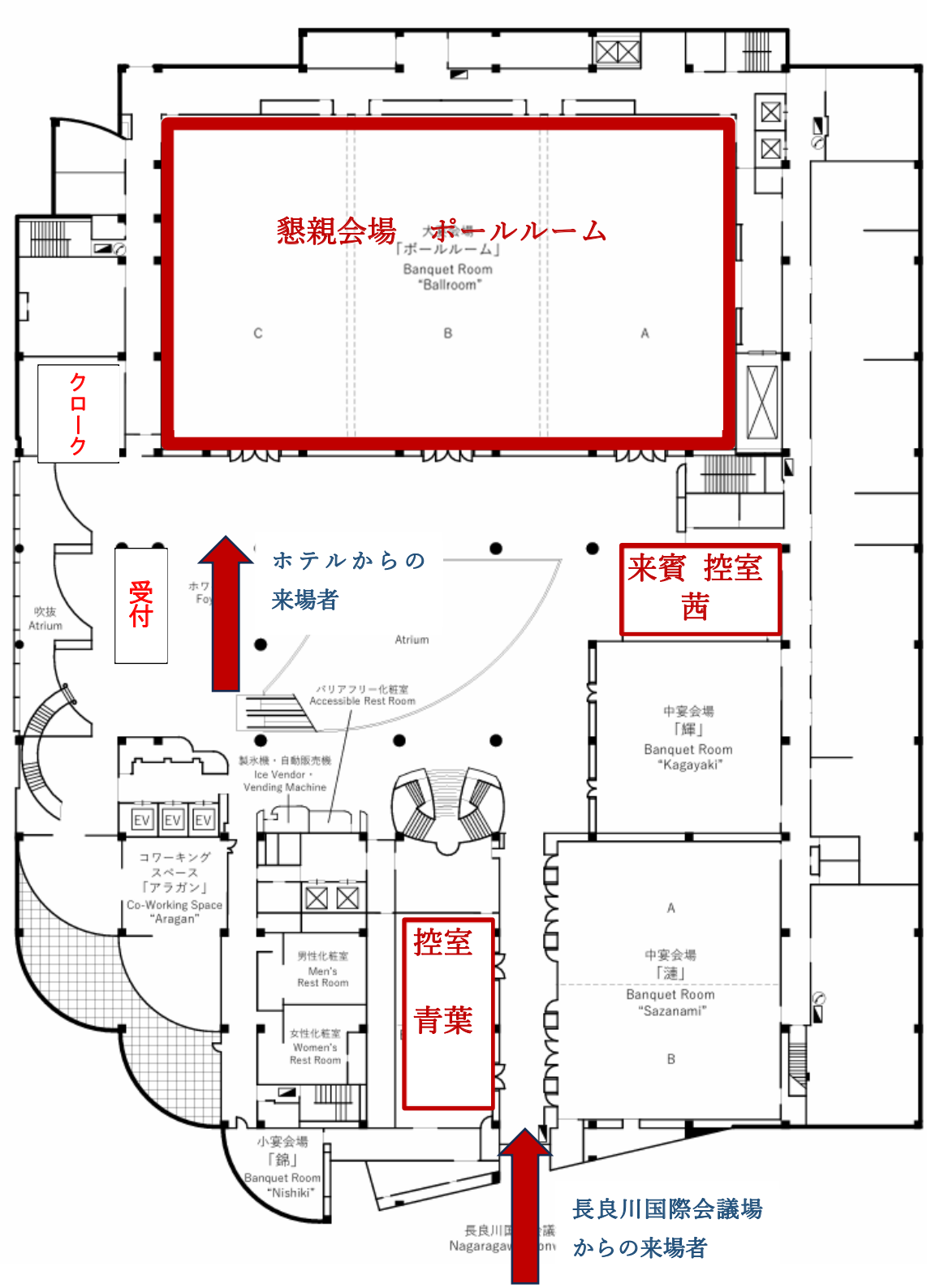
６．技術者交流懇親会について

技術者交流懇親会の参加は、１１月９日（月）に実施いたします。参加者は、**参加証・パスポートに懇マーク表示されている方**に限らせていただきます。当日の参加お申し込みは、定員になり次第終了いたします。

（１）開始時間等：受付開始 17 時 30 分、入場開始 17 時 50 分、開宴 18 時 00 分、終了 19 時 40 分

（２）会場：都ホテル 岐阜長良川　　※長良川国際会議場２F 直結

（３）クローク：会場脇にクロークを設営しますので、ご利用ください。



７．その他、技術発表会会場（長良川国際会議場）について

（１）大きなお荷物について

クロークにはありません。各フロアにコインロッカーがありますが、大きな荷物は駅のコインロッカーをご利用ください。

（２）会場内での飲食について

基本的に飲食は可能です。開催中の講演会および展示会の会場での食事はご遠慮ください。昼休み時間には講演会場およびメインホールでの飲食が可能です。ごみは各自、決められた場所に捨てるか、お持ち帰りください。

（３）昼食などについて

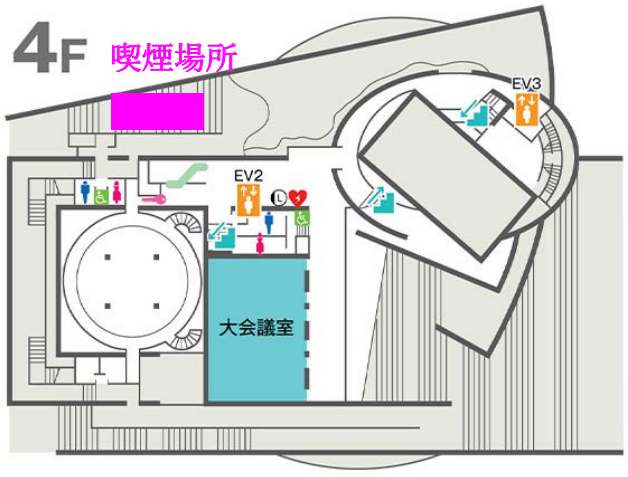
長良川国際会議場周辺には、食事のできるところがほとんどありません。また、近隣にもレストランは限られております。**昼食を予めコンビニ等で準備されるか、キッチンカーのご利用（18 ページ）をお勧め**します。

（４）無料公衆無線 LAN について

無料で無線 LAN（Wi-Fi）を利用できます。

（５）喫煙について

長良川国際会議場の**建物内は禁煙**です。喫煙場所は 4 階屋の**屋外に１カ所**あります。



（６）会場までのアクセス

JR 岐阜駅または名鉄岐阜駅から、バスまたはタクシーにて移動となります。

（次頁に案内図）

会場のご案内《長良川国際会議場 住所：岐阜市長良福光 2695-2》

アクセスマップ　https://www.g-ncc.jp/visitors/

＜長良川国際会議場へのアクセス＞

JR・名鉄岐阜駅よりバス利用の場合約２０～２５分

タクシー利用の場合約１５分



岐阜バス「市内ループ線」で「長良川国際会議場北口」下車（徒歩 3 分）

「岐南町線」で「長良川国際会議場北口」下車（徒歩 3 分）

「三田洞線 K50・K55」で「長良川国際会議場前」下車（徒歩 1 分）

行き先と乗り場

行先番号「K50」「K55」は、JR 岐阜駅前 10 乗場から、

「長良川国際会議場前」下車　徒歩 1 分、JR 岐阜駅から約 20 分

※「市内ループ線」「岐南町線」は JR 岐阜駅前 11 乗場(名鉄岐阜駅前 4 乗場）から

「長良川国際会議場北口」下車　徒歩 3 分、JR 岐阜駅から約 20 分

※各路線をあわせると、7 時～22 時の時間帯は、おおよそ約 10 分間隔で運行しております。



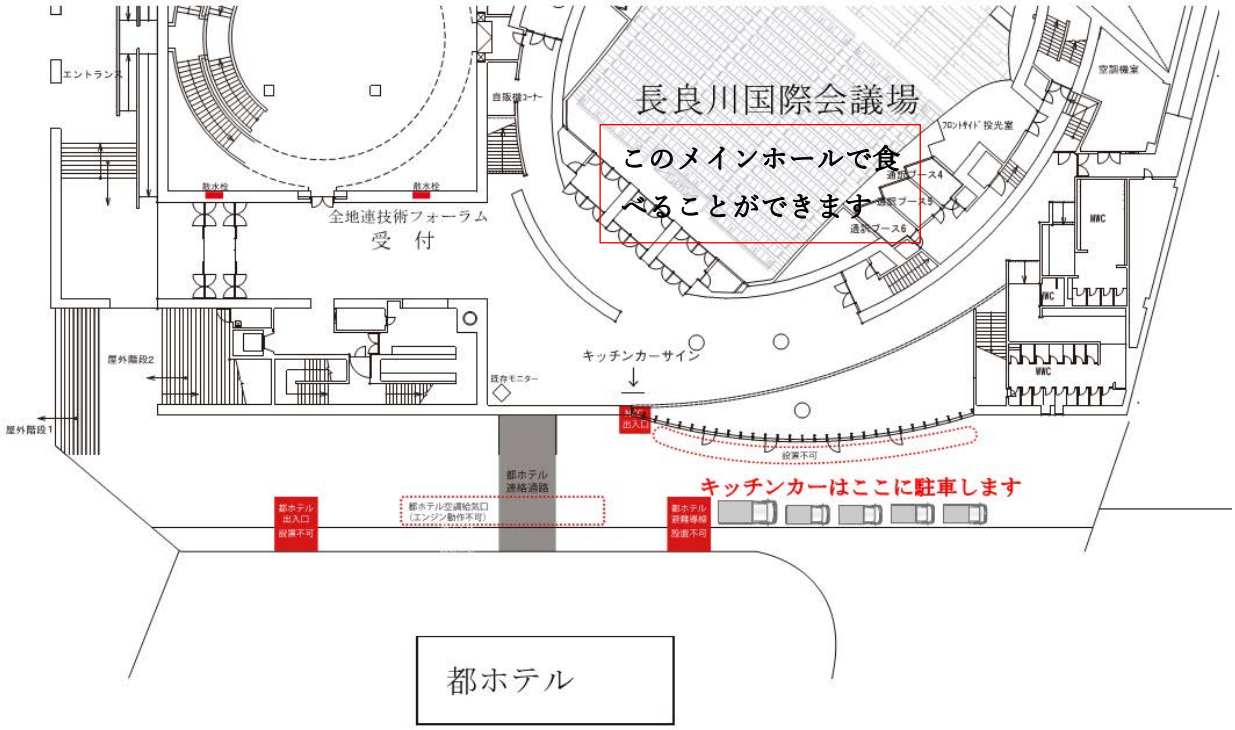
【会場付近では食事をするところが非常に限られています】

一般参加者の昼食用に「キッチンカー」を 2 台手配しています。
メインホールで食事をすることが可能です。

キッチンカーを利用する際には、以下の専用サイトより事前申し込みが必要です。
ご注文受付期間：10 月 20 日（火）13:00　～　11 月 5 日（木）23:30

https://c-kitchencar.jp/event382

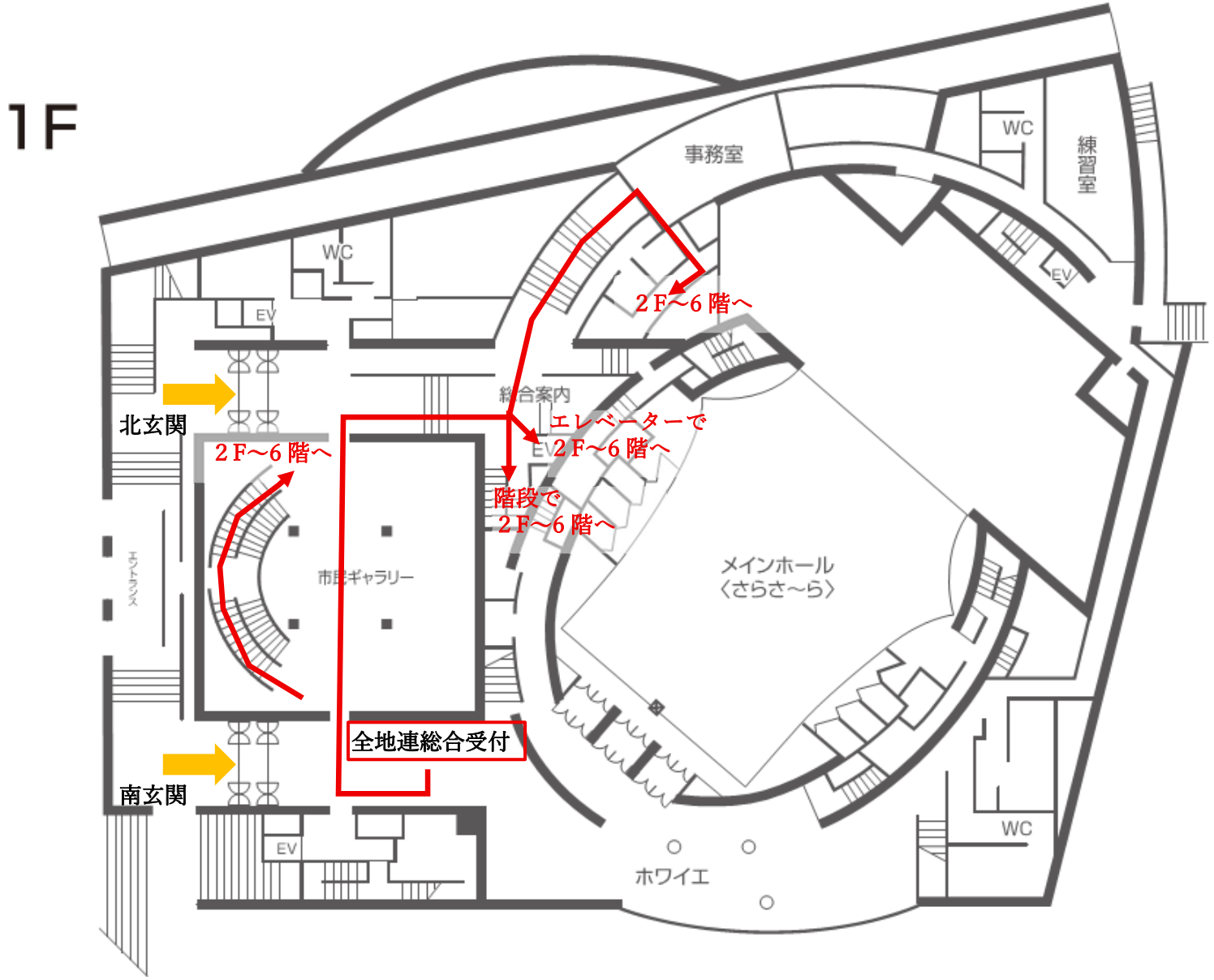
キッチンカーは、長良川国際会議場と都ホテルの間の 1Ｆに駐車します。
全地連技術フォーラム受付の近くに出入り口があり、サインボードが出ています。



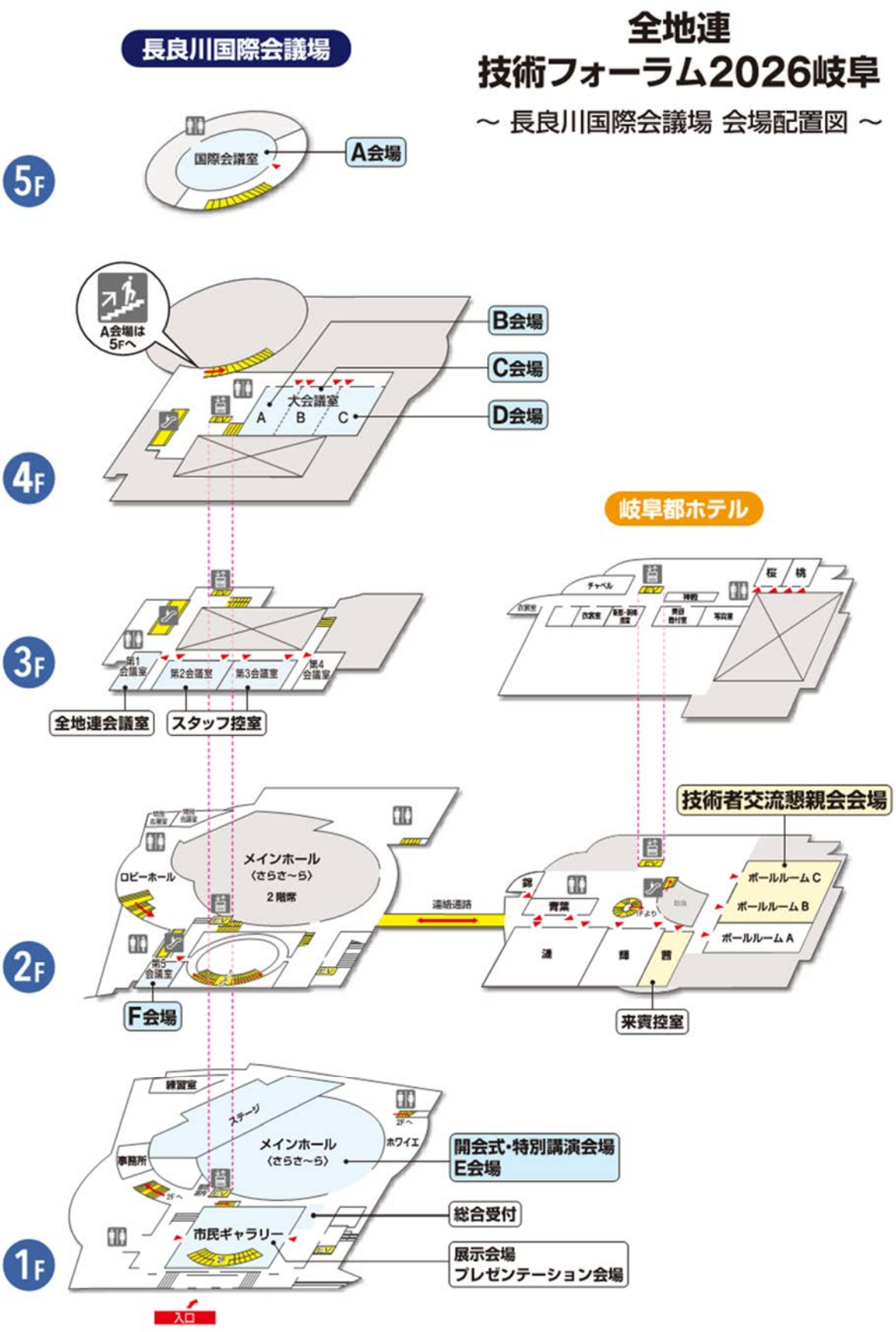
※注意事項：

・お支払いは当日、受け取り時になります。お支払い方法は現金・PayPay のみです。事前のお支払い・クレジット決済はございません。
・ウェブでのご注文は、変更・キャンセルを承っておりません。
・当日その場でのご注文・購入も可能です。事前注文は、お待ちいただく時間を短くするためのサービスです。

１Ｆの案内（上の階への行き方）



館内の案内


全地連
技術フォーラム2026岐阜
～ 長良川国際会議場 会場配置図 ～
長良川国際会議場
5F
国際会議室
A会場
4F
A会場は5Fへ
大会議室
A
B
C
B会場
C会場
D会場
岐阜都ホテル
3F
第1会議室
第2会議室
第3会議室
第4会議室
全地連会議室
スタッフ控室
桜
桃
チャペル
2F
ロビーホール
メインホール
〈さらさ～ら〉
2階席
第5会議室
F会場
連絡通路
技術者交流懇親会会場
ボールルームC
ボールルームB
ボールルームA
来賓控室
1F
練習室
ステージ
メインホール
〈さらさ～ら〉
ホワイエ
事務所
市民ギャラリー
開会式・特別講演会場
E会場
総合受付
展示会場
プレゼンテーション会場
入口

今日と未来を、つなぐ。



変化が激しく、新しい価値観が生まれる時代。
今日という、一日一日を大切にする。
その積み重ねが、未来へとつながっていく。
日本生命は今を生きるすべての人たちの
トータルパートナーとして
これからも社会に向き合い続け、ともに歩んでいきます。

日本生命
NISSAY

2021-1494G,総合企画部

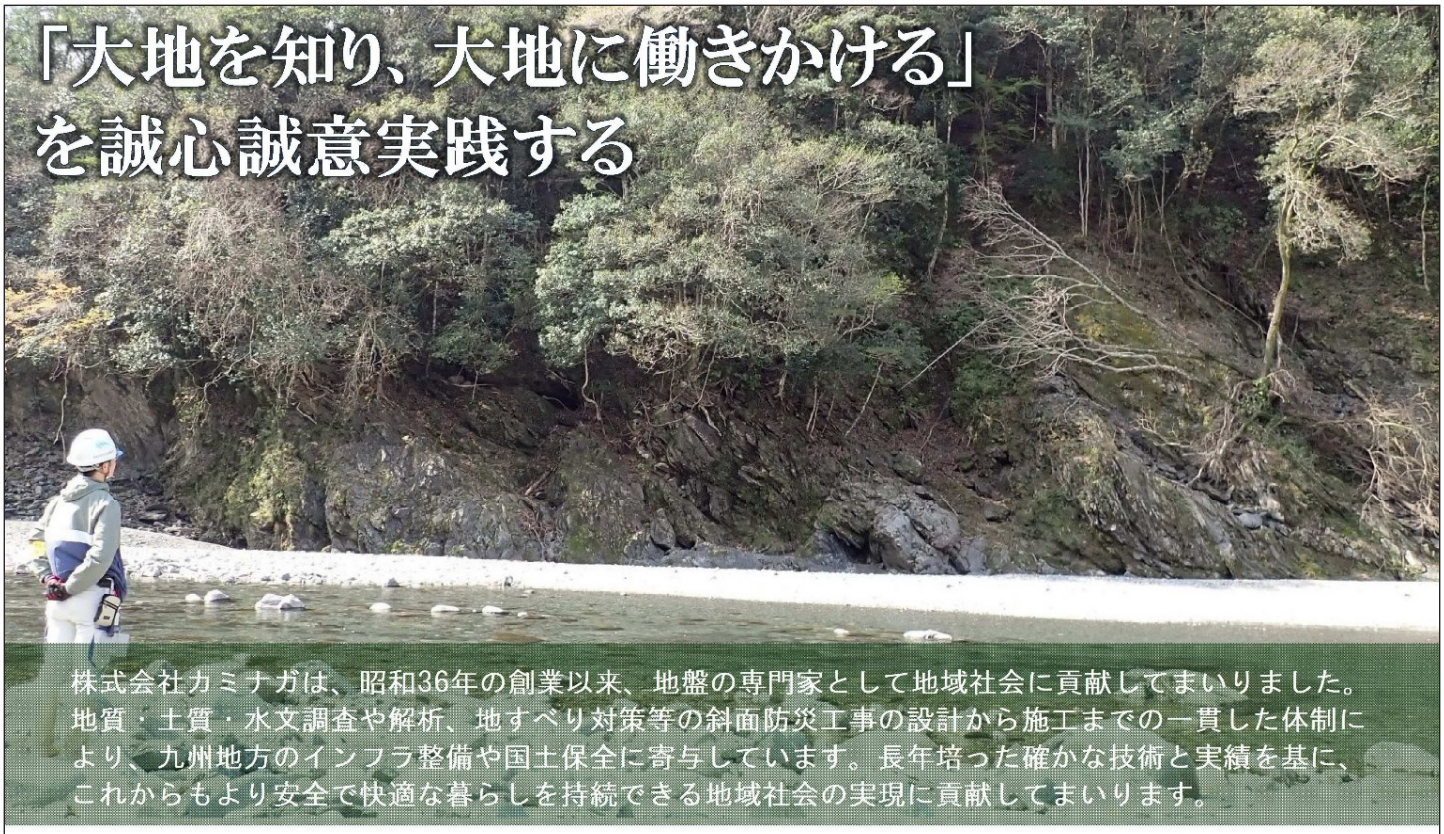
みなさまの安心な未来のために

各種保険制度で全地連会員企業の
みなさまをサポートします

株式会社ジオ・ビジネスサービス

Tel：03-3518-4900（代表）
https://zenchiren-geo.jp/

ジオビジネスサービス 検索



株式会社カミナガは、昭和36年の創業以来、地盤の専門家として地域社会に貢献してまいりました。
地質・土質・水文調査や解析、地すべり対策等の斜面防災工事の設計から施工までの一貫した体制により、九州地方のインフラ整備や国土保全に寄与しています。長年培った確かな技術と実績を基に、これからもより安全で快適な暮らしを持続できる地域社会の実現に貢献してまいります。

株式会社カミナガ

【本社】
〒812-0007　福岡市博多区東比恵2丁目7番13号
TEL　092-451-6221　FAX　092-451-4854
【長崎本社】
〒854-0069　長崎県諫早市貝津ヶ丘489番15号
TEL　0957-56-9703　FAX　0957-56-9813

RaaX

ボアホールカメラ

BIP-SD
計測範囲拡大

新機能搭載
ジャイロセンサー
＋
気泡計自動追尾機能

簡単操作はそのままに、
計測できる範囲をさらに広く。

磁気の影響を受けない
ジャイロセンサー搭載

磁気の影響を受けるケーシング付近でも、
ジャイロセンサーが正確な方位を計測。
安定した精度でデータ取得が可能です。



方位ミスを防ぎ、360°計測可能
気泡計自動追尾機能

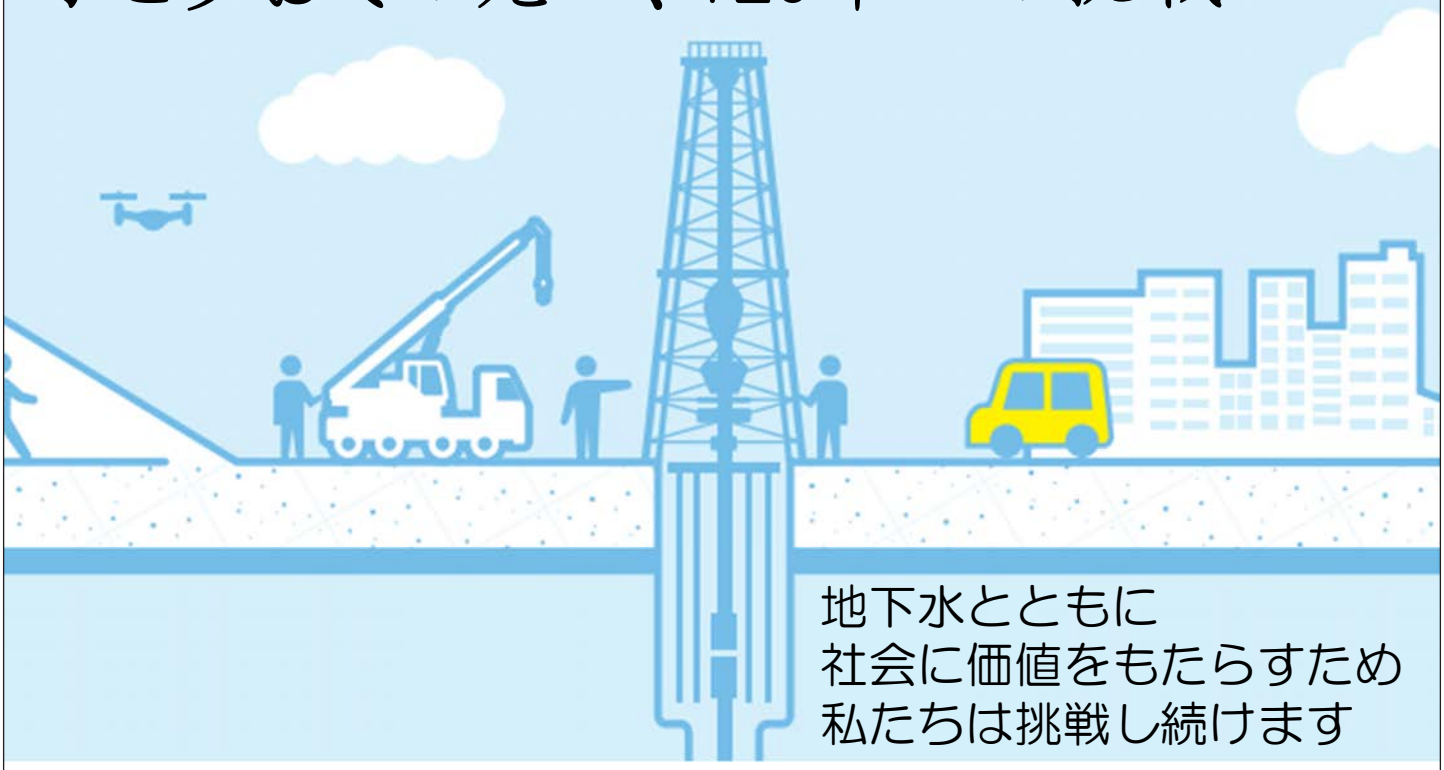
カメラ内の気泡計（水準器）を自動で追尾することで手動調整によるヒューマンエラーを防止。
鉛直だけでなく水平・斜め方向のボーリング孔にも対応できるようになりました。

360°
全方位計測可能

製品情報はこちら
https://www.raax.co.jp/

株式会社 レアックス
〒065-0024　札幌市東区北 24 条東 17 丁目 1 番 12 号
TEL：011-780-2222　E-mail：r-sales@raax.co.jp

水と歩むその先へ、120年への挑戦



地下水とともに
社会に価値をもたらすため
私たちは挑戦し続けます



さく井工事



特殊土木工事



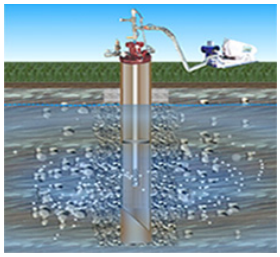
地質調査・
建設コンサルタント



海外事業



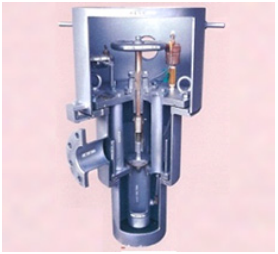
地下水関連設備工事



井戸メンテナンス



技術開発



井戸用設備製造･販売

創業明治45年
株式会社 日さく
WATER&GEO-TECH ENGINEERS, NISSAKU

【本社】　〒330-0854　埼玉県さいたま市大宮区桜木町四丁目199番地3
【TEL】048-644-3911　【FAX】048-644-3958
【支社/支店/営業所/工場】大宮、名古屋/仙台、新潟、上越、静岡、大阪/東京、長野、石川、福岡、沖縄/鴻巣
【URL】http://www.nissaku.co.jp/　【E-Mail】info@nissaku.co.jp

未来の礎をカタチにする



建設・防災・環境の分野で
調査・設計・情報のテクノロジーを活用し
安心して快適に暮らせる豊かな地域づくりに貢献します

総合コンサルタント

社会基盤 × 地域計画 × 地質調査 × 環境調査 × 情報・映像 × 測量・計測


社会基盤


地域計画


地質調査


地質調査


環境調査


環境計量証明


情報処理


測量

ニタコンサルタント株式会社

本社　〒771-0122 徳島県徳島市川内町鈴江西38-2 TEL 088-665-5550 FAX 088-665-0115
支店・営業所 ／ 沖浜オフィス（企画部SIPOND管理センター）・関西事業所・徳島町事務所

サンコーコンサルタントは、多角的なアプローチで
“適切な社会資本の在り方”を提案します。



最高の信頼

サンコーコンサルタント株式会社は 1961 年の創業以来、総合建設コンサルタントとして幅広い分野のサービスを国や都道府県・市区町村自治体、独立行政法人等のお客さまに提供して参りました。

永年培ってきた優れた調査技術及び広範なノウハウ、コアテクノロジーを駆使して、ダム・トンネル・道路・橋梁・河川堤防等の土木分野、地すべりや地震等の防災関連分野、そしてエネルギーや温泉等の資源活用分野など、幅広いニーズに対して地質コンサルティング業務を行っています。

技術の錬磨

今後もお客さまの多様なニーズに応え続けていくために、サンコーコンサルタントでは常日頃から技術力の向上に努めています。

キャリアに応じた各種研修や、各社員が従事した業務・研究の成果を発表しあう技術発表会を実施しているほか、建設コンサルタント業界において特に重要視される技術士資格の取得を、資格保有社員のマンツーマンの指導下で目指す技術士資格取得支援制度を設けています。



総合力の発揮

地質・地盤、道路、河川・上下水道、まちづくり、環境調査等の各分野にスペシャリストを置くサンコーコンサルタントは、横断的な知識を要する業務に対しても、一貫したサービスを提供することが可能です。

また、目まぐるしく発展し続ける社会に対応するために、部署や年齢の垣根を超えて新技術の提案・創造・導入に挑戦するワーキンググループを設置するなど、日々進化を続けています。

ひとのくらしを「守り、支え、創る」。

SUNCOH

サンコーコンサルタント株式会社

会社HP

本店所在地　〒 136-8522　東京都江東区亀戸 1 丁目 8 番 9 号
電話番号　03-3683-7111
支社・支店　東日本支社（江東区）、札幌支店（札幌市）、東北支店（仙台市）、北関東支店（さいたま市）
東関東支店（船橋市）、横浜支店（横浜市）、北陸支店（新潟市）、名古屋支店（名古屋市）
大阪支店（大阪市）、九州支社（福岡市）、南九州支店（熊本市）

人と向き合い、
土と水と向き合う
100年企業を目指して。



興亜開発株式会社

私たちの興亜開発の
詳しい内容はこちら！

会社HP

公式X


OYO
応用地質
人と地球の未来にベストアンサーを。
穏やかな海、木々の間にそよぐ風、そして人と人の暮らしを支える大地…。
人々に恵みをもたらす自然は傷つきやすく、それでいて時に災いを招きます。
私たちはもっと、地球のことを知らなければなりません。
応用地質は、地球科学に関わる深い知見と豊富な技術、
さらにはデジタル技術のイノベーションを通じて、自然の本質に迫ります。
安全で安心な社会を築くソリューションを、導くために。
応用地質株式会社
TEL：03-5577-4501（代表） https://www.oyo.co.jp/

大地を探る

〒462-0842
名古屋市北区上飯田南町2-45-1
TEL 052-917-1821
FAX 052-917-1820
URL：https://aoi-tec.co.jp

55th ANNIVERSARY

株式会社アオイテック

本社・名古屋　岐阜　三重　豊橋　春日井



独自技術のピースで未来を育むベストソリューションを提供します。

Sincerely, Speedy and best Solution
川崎地質株式会社　中部支社
Kawasaki Geological Engineering Co., Ltd.

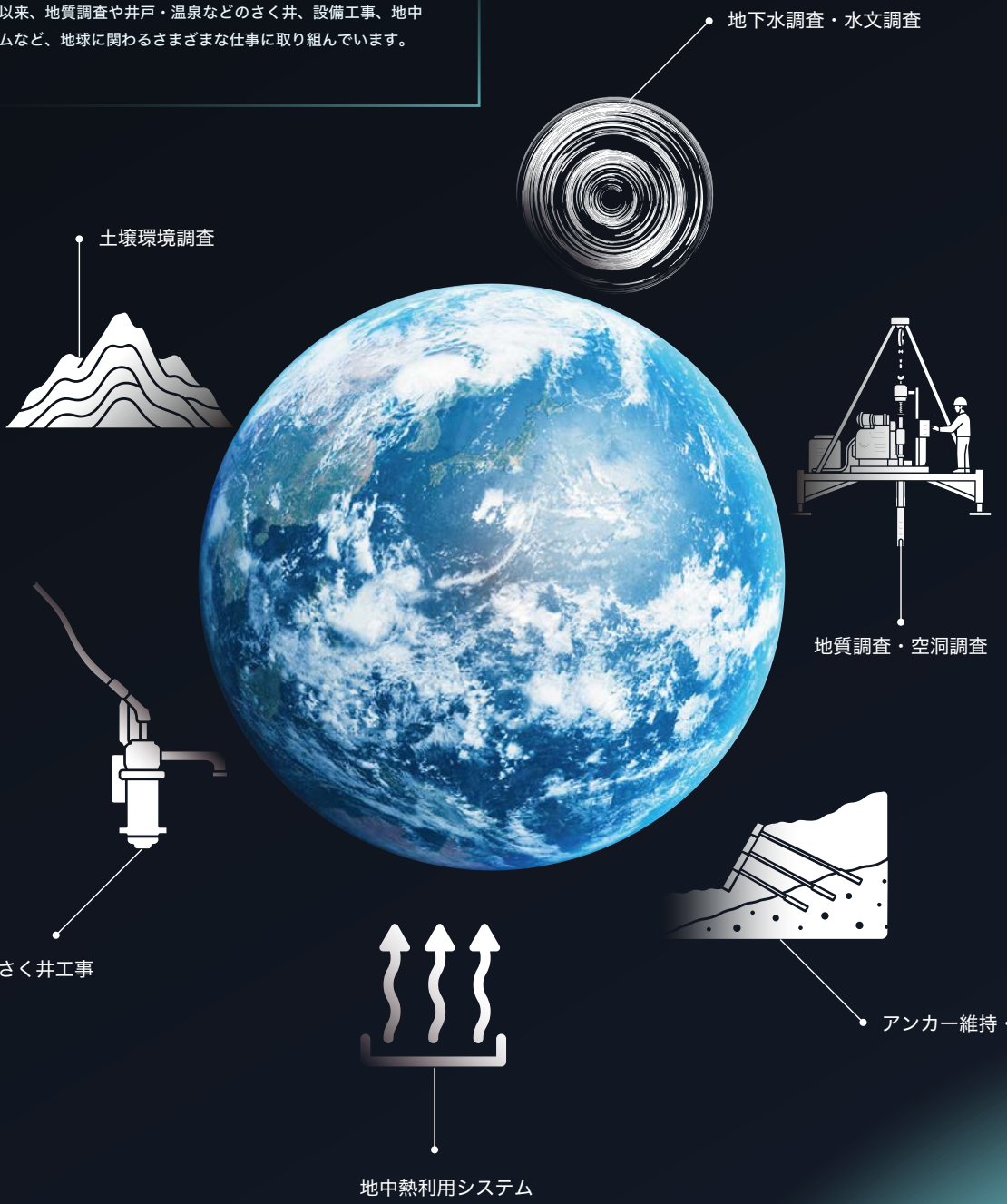
〒465-0025 名古屋市名東区上社2-184
TEL:052-775-6411　FAX:052-775-6415
HP:http://www.kge.co.jp/
E-mail: post-master@kge.co.jp

WATER SOIL ROCKS ENVIRONMENT

The technology we have is needed.

これからの地球を支える、技術。

東邦地水は、「水・土・岩・大気」に関わる技術を専門とする会社です明治33 年の創業以来、地質調査や井戸・温泉などのさく井、設備工事、地中熱利用システムなど、地球に関わるさまざまな仕事に取り組んでいます。



東邦地水株式会社
TOHO CHISUI
Sincerity & Technology

本社・管理本部
〒510-0025　三重県四日市市東新町 2-23
TEL：059-331-7315（代表）　FAX：059-331-8937

支社
愛知県 / 岐阜県 / 静岡県 / 埼玉県 / 新潟県 / 大阪府 / 滋賀県 / 奈良県

Web



(株)中部ウエルボーリング社
CHUBU WELL BORING Inc.

人と地球の間をつなぐ「地質屋」

自然のまま、あるがままを読み解く。

私たち中部ウエルボーリング社は、少数精鋭の地質屋です。
東海エリアを中心に地質調査を行っています。
自然のまま、あるがままを読み解き、人にも地球にも誠実な調査を行っています。
地球や自然が大好きな皆様と共に、地質調査という仕事を通じて
多くの人々の暮らしを支えていけることを心待ちにしています。

株式会社　中部ウエルボーリング社
〒464-0027
愛知県名古屋市千種区新池町4丁目55番地
TEL: 052-781-4131　MAIL: recruit@cw-b.jp

コーポレートサイト

公式X